

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和7年5月21日	
愛知県知事 様	
提出者	
住 所	名古屋市中区錦2丁目20番15号
氏 名	鹿島建設株式会社中部支店
	執行役員支店長 秋田大次郎
	(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号	052-307-5111
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	鹿島建設株式会社 中部支店
事業場の所在地	名古屋市中区錦2丁目20番15号
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	元請完成施工高 1,003,559万円
③ 従業員数	663名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①産業廃棄物の一連の処理工程」のとおり

産業廃棄物処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

「別紙 ② 管理体制図」のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】（別紙1のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 鋼製足場材の使用、設備機器等の梱包材の削減（メーカーへの協力要請） ・ 工法変更（仮設・本設）設計に組込まれていない場合は以下の事項について発注者と協議 P C 化、ユニット化、ラス型枠、床のデッキプレート等		
②計画	【目標】（別紙2のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 前年度の取り組みを継続		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 施工段階で現場状況に応じて以下を実施 コンガラ、アスガラ、木くず、金属くず、ダンボール、石膏ボード A L C、岩綿吸音板、廃蛍光管、その他
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 前年度の取り組みを継続

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】（別紙1のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】（別紙2のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 特になし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】（別紙1のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】（別紙2のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) ・ 特になし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】（別紙1のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】（別紙2のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 特になし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】（別紙1のとおり）		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 委託処理業者に対し減量化・再資源化率の調査を行い、 処理委託業者選定時の参考になっている。		

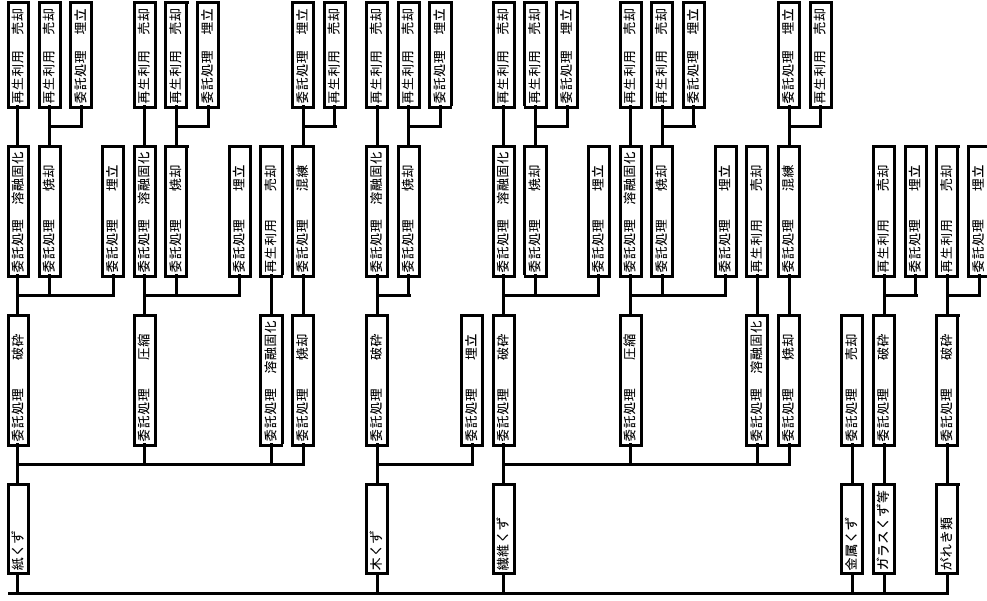
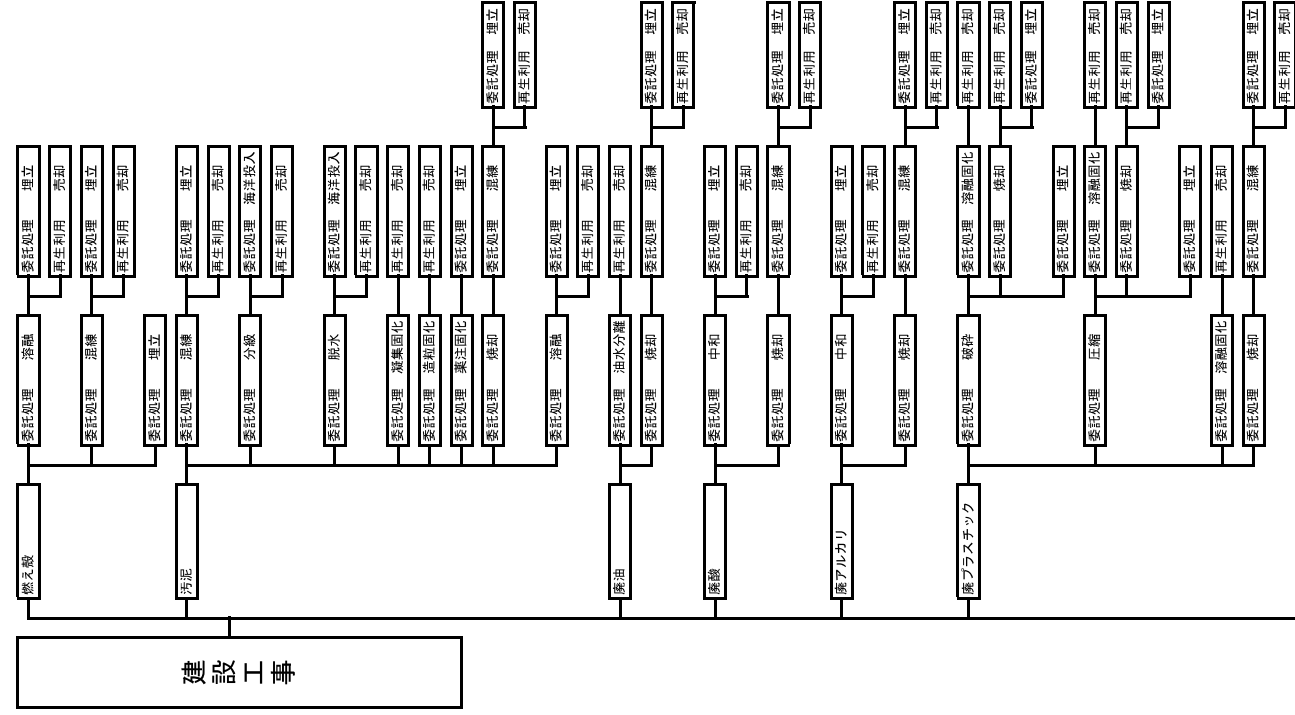
(第5面)

②計画	【目標】(別紙2のとおり)		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・前年度の取組を継続		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現行行っている事業に関する事項
産業廃棄物の一連の処理工程



別紙②管理体制図

